

ふじのくに型福祉サービスとは

年齢や障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるような“垣根のない福祉”をコンセプトにした、静岡県が市町、団体、事業所等と協働で推進している福祉サービスの理念です。「居場所」、「ワンストップ相談」、「共生型福祉施設」の3本の柱から成っているのが特徴です。



「ふじのくに型福祉サービス」の必要性

介護保険制度の定着に伴い、高齢者介護サービスの基盤整備は進んでいますが、一方で以下のような課題が生じています。

- 障害福祉サービスが身近にない。また、障害のある人が施設まで通うのが困難な場合がある。
- 家庭の中で、介護・福祉・医療・保健・子どもに関わる複合的な問題を抱えている場合がある。
- 核家族化に伴い、高齢者と子どもの交流や地域内での交流など、多世代の交流機会が減っている。

⇒このような諸課題を解決するために、静岡県では「ふじのくに型福祉サービス」の推進に取り組んでいます。

